

山元町総合計画審議会委員意見一覧

1: 第1回審議会

2: 第2回審議会 ②: 第2回審議会後ペーパー意見

3: 第3回審議会 ③: 第3回審議会後ペーパー意見

4: 第4回審議会 ④: 第4回審議会後ペーパー意見

委員		将来像や基本理念、使用する言葉等、基本構想に対する意見
萱場 委員	3	10年前の将来像にも「笑顔」とあるが、実際みんなは笑っていない。その理由は様々あると思うが。
	3	現計画の将来像でも笑顔が入っており、今回もその繋がり笑顔という文言を入れたのかという意図を感じる。
	②	自然や地域の繋がりといった、子供たち視点の町の魅力的な部分を将来へと残す必要があると思う。
	②	中学生アンケートの結果を反映し、中学生の純粋な思いを裏切らないような町づくりを行う。
	②	ある国で「貧しくても幸せ」という指標の結果があったが、「この町に住んでいて幸せ」という答えをもらえるようになることが望ましいと思う。
	4	この会議ではやってほしいことなどの具体的なことを言っても仕方ないのか。あくまで大枠の意見のみが必要なのか。
	4	現在の将来像は誰かに頼っているような表現にも感じる。共に・みんなでといった、協働の内容を盛り込むことは、町民が主役であるという感じで良いと思う。
早坂 委員	3	基本方針に「明るい」「笑える」などといった心温まる言葉を盛り込んでも良いのではないかな。
伊達 委員	3	カッコ内の分野について、5つの基本方針に必ず分けなければならないのか。完全に分けられるものではないと思う。カッコは別の欄に設け、基本方針と矢印で結ぶような形にしても良いのではないかな。
	3	(基本方針の分野を記載した)カッコ自体をすべて消してしまえばいいのではないかな。
	3	将来像はこれでいいのかな。語呂が悪い。笑顔が輝くというのがよくわからない。
	③	p5、「SDGs」の注釈を欄外につけてはどうか、分からない人が大半ではないかな
	③	p6、(8)「若者の参加」や「世代間交流」の重要性についても記載してはどうか
	③	p6、(10)に「災害の危険性」に近年の気候変動による局所・短時間での重人自然災害(土砂災害等)の頻発、防災・減災から免災へ、国土強靱化の動き、についても記載すべき
	③	p7、「創造的な復興のトップランナー」は大げさで自画自賛で笑えてしまうのでもう少し表現を変えるべきではないかな。
	③	p11、農業産出額の以前のデータ(H12, 17, 22)が無いのはなぜか(p8~13、この間のグラフなどは参考資料に移動を考えてはどうか)
③	p14、(5)近年の主な動向 過疎地域に指定されたことによる、メリット、デメリットについて注釈を欄外につけてほしい。	

伊達 委員	③	p 14、③常磐自動車道… 仙台からの距離や時間も記載してはどうか。
	③	p 14、⑦震災復興による地域環境の変化(追加してほしい) ・沿岸部からの移転による新市街地のコンパクトシティの実現
	③	p 14、⑦震災復興による地域環境の変化(追加してほしい) ・新市街地の造成やJ Rの内部に移設による新遺跡(合戦原・線刻壁画、犬塚・製鉄炉跡)の発掘・発見、なども記載してはどうか。
	③	p 16、4、防災力の維持や生活利便性の向上 なぜ、「防災力の維持」と「生活利便性の向上」をひとつの項目にまとめる必要があるのか、意味不明。
	③	p 17、5「環境に配慮したコンパクトなまちづくりの推進」意味が違う。「環境に配慮したまちづくり、コンパクトなまちづくりの推進」となるのでは
	③	新市街地周辺への移住者(町外から、町内も)への受け皿づくり(住宅地供給)により更なるコンパクトシティ化に向けての進展を模索する
	③	P 18～24、町民の意向と期待(町民アンケート調査結果)これについての調査結果はこの箇所への記載は調査結果の結論のみとし、グラフや図表などは参考資料(巻末にまとめる)にしてはどうか。あまり説明が長いと読まないし、基本構想は要点を短く記載したほうが良い。(都市計画マスタープランを参考にってはどうか、p 8～13 も同様に整理しては)
	③	p 25 第5章まちづくりの戦略課題 課題1; 町民… ここで環境という言葉の使い方がおかしい。生活環境と自然環境がごちゃ混ぜ状態。整理が必要ではないか。
	③	p 25 第5章まちづくりの戦略課題 課題2; (1行目)…増加しており、(追加)さらには1人世帯、独居老人も増加しており、それを地域全体で支える…。
	③	p 26、(1行目)「インフラ整備や行政サービスの格差」について、ここでいう格差は町内での格差なのか、たとえば仙台と山元町との格差なのか、ちょっと分からなかった。
	③	p 26、課題3、若者は外・都会に出たいという気持ちは持って当たり前、ここに生まれてから一生終えるまで押しとどめておくことは不可能と思う。一度外へ出て、社会勉強して、戻ってきてもらう。したがって、戻ってきやすい環境、戻れる場所を整えておくことが必要と思う。交流人口拡大に向けた取り組みから、良さを理解してもらい、定住へと向けた取り組みが必要ではないか。
	③	p 29 第1章(前段、8行目)第5次計画での成果を踏まえつつ、→第5次計画の成果と課題を踏まえ、
	③	〔基本理念1〕「実感する」はいらぬのでは
③	P 30 第2章 キャッチフレーズ 『キラリやまもと! みんなの笑顔が輝きつづけるまち』についてキラリは一瞬の輝きを表す言葉、つづけるとは言葉としてあわない。まして笑顔が輝くは意味がおかしい。輝くは瞳。『キラリやまもと!』はキラリとひかるものがいっぱいある町ということだと思いが次につづける言葉が難しい。公募してはどうか。	
③	p 31、人口推定は妥当だと思う。	

伊達 委員	③	p 33 健やかな… (子育て環境、…)のかつこの中は記載しなくてもよいのではないかと。縦割り組織を意識しすぎている。組織はいつ変わるかわからないので意味がない。
	③	p 33 健やかな… また、「保険・医療」と一緒に括りにしているのに「障がい者福祉」と「高齢者福祉」はなぜ、別の括りにしているのか。これも縦割りか。
	③	p 34 地域の資源に関して、もう少し資源の内容を詳しく、具体的に記載しては、例：文化・歴史(史跡、遺跡等)・・・
	③	p 34、2 項の文化・歴史と 3 項の文化・芸術の同じ文化という言葉でも意味の違いを説明し、明確にすべきと思います。例；3 項の文化(伝統神楽等)など
	③	p 34、最後に「交流人口の拡大につなげていく」などと記載してはどうか
	③	p 35、5 コンパクト・・・また、厳しい行財政運営の中… ・行政運営の効率化⇒行政運営の効率・低廉化 ・町民の満足の高い行政運営⇒町民の満足度が高く、しかし低コストの行政運営 ・(追加) A I、I T 化を促進し、スモールシティ化、従来仕事のプロセスの変更、窓口業務の一本化、事業項目の削減・統合化などおもいきった業務再構築(スクラップアンドビルド)により、行政の事務コストの削減(役場内の自らの身を切る改革が必要)に努める。
	③	p 35 自然環境を保全しながら… ・自然環境の保全と質の高い都市機能やサービス…は分けるべきではないか。 ・「しながら、・・・させる」は次元が違うので一緒にするのはおかしい。 ・SDG3「環境に配慮した持続可能な生産消費形態の確保」の考えにのっとり、その実現のためにコンパクトシティ化は必要。山元町がその牽引役となる。
	4	基本構想に関しては、目を通しやすくするためにもページ数は極力少なくし、重要な点のみ載せるべきと思う。現況、アンケート調査結果は省いてはどうか。
	4	ありふれた言葉だけでも、「みんなの笑顔が輝きあふれるまち」でも言葉としてはその方が語呂合わせが良いのかなと思う。
	4	基本理念 3 を「愛と誇りを協働で育むまちづくり」にしてはどうか。
	④	基本構想 26P 課題 2、(町民との意向と期待に追加) ・I・J・U ターン者に向けた町の現状についての情報提供及びソフト・ハード両面での受け皿づくりが重要と思われます。
	④	将来像 案 1 「キラリやまもと！笑顔輝き、愛あふれるまち」 案 2 「キラリやまもと！みんなで作ろう、笑顔あふれるまち」 案 3 「キラリやまもと！みんなで作ろう、笑顔いっぱいのもち」
	④	基本構想 p 33、4 行目 インバウンド「各拠点のネットワークを構築します」とあるが実施計画をみても各拠点の具体的なイメージがどんなものか思い浮かばない。したがって、「公園化などで各拠点を整備し、それらのネットワークを構築します」もしくは「公園整備などにより各拠点をつくり、それらのネットワークを構築します」と修正してはどうか。

荻原 委員	3	基本理念1に「住んで良かったと実感する」という文言があるが不要ないと思う。その代わりに、「便利で快適な魅力あふれるまちづくり」といったようにする方が明るいイメージでよいと考える。
	②	1. 理念について ・美味しい・楽しい・嬉しいが揃う、笑顔あふれるまちづくり ・利便性に富んだ、だれもが生活しやすいまちづくり ・街の宝である子供達を、愛情たっぷりにつつみこむまちづくり
阿部 委員	3	計画の内容について建前としてはいいと思うが、中高生には実現できるのかという指摘を受けた。コンパクトのコンパクトの部分には約束という意味がある。将来に向けて約束をできるのかという内容の話を次回したいと思う。
	④	地元の中高生の中には、「計画なんていらんじゃないの?」「自分には関係ない」「きれいごとすぎる」という子もいます。
	④	震災後に移住してきた何人にかには「(計画があると)外から関わる人間からすると、この町はどのような方向に進もうとしているのかがわかりやすい」と言われる。計画というものは、これから町に関わる人のためにこそ意味があるものなのかもしれないと、自分の中で合点がつき始めました。
	④	【まちの将来像】 (案1)「自分らしくいられる、山元町へ」(案2)「自分らしく生きる。山元町」 (案3)「じぶんらしく、山元町へ」 提案理由：中高生・新規移住者と「基本理念」「将来像」を読み合わせるワークショップを複数回行う中で、「似たような言葉をよく聞いたので、面白みがない」「読んでいてこっぴどかしい。」「一言が長い」「行政文章っぽい」といった声が出て、概ね不評。 一方、P28の3行目にある「自分らしくいられること」という言葉は、共感できるとの声があった。山元町をおためし移住事業等で訪れる参加者のアンケートや手記にも「自分らしく生きている人たち」という意見が複数みられます。町外からかかわる人には、山元町がそう見えているということなのでしょう。基本理念とも整合性が取れると考えます。
	④	この計画が決まったあかつきには、基本方針や目標指標にむかって、なんでもかんでも行政まかせにするのではなく、各種団体・企業が、積極的に担える「すべきこと」(義務)、「できること」(貢献可能性)があると思います。それも含めた目標指標が必要ではないでしょうか。現状だと、行政運営の方針・目標のように読めてしまうので。(一案ですが、方針や目標のページに余白をとり各団体・企業が目標に向かって、「すべきこと」(義務)、「できること」(貢献可能性)、「できていること」(実績)、「今後進めるべきことと、そのアプローチ」(課題と対策)を書き込むスペースを取り、定期的に振り返る機会を設けるなど。)
清橋 委員	②	今後も継承すべき点として、だれもが住みたくなるようなまちづくり。
	3	基本方針内のカッコ内に関して、今の形を見ると担当課ごとに分かれているように見えるが、課ごとに分けてしまったら連携すべき時にうまく連携できず、事業がバラバラに進んでしまい、町民が思った方向に進まない危惧があるのではないか。分かれているなど思うようなものでなく、総合的に繋がるようにしていけないだろうか。

清橋 委員	3	基本方針1から4に関してはSDGsの考えを方針の中に入れて込んでいると思うが、方針5はそれに当てはまらなかったものを入れたように見える。SDGsの考え方に沿って作るのも良いが、山元町の自然な考え方を基にした結果このような形になったというようにする方が良いのではないかな。
	4	基本構想の文章などについて、表と一致させる点や重要な部分は色付けして欲しい。
	4	p16 3教育…「引き続き実施していく」という表現を、「より力を入れて」など前向きな表現にしてはどうか。
	4	p19 「住み続けたいと考える人が増えてもらうために」という表現に対して、人が増えてもらうためのなのかな、人を増やすためのなのかながわかりにくい。また日本語の表現としても少しおかしいように感じる。
	4	p26「バランスが懸念」という表現。「バランスが取れていないことが懸念」であり、日本語としておかしいと感じる。
	4	施策の大綱には「共に」「協働」という言葉が出てくるが、将来像にはそのような文言は含まれていない。上段となる将来像にも、みんなで作っていくという感じが読み取れる文言を入れてもいいのではないかな。
	4	将来像の案として「笑顔があふれるまちやまもと」。みんなで作って、その結果、笑顔があふれるまちになったらいいなというように思う。
	④	P15-⑦ 全国からの支援・つながりでは自治体からの支援について、「数多くの自治体職員が派遣されており…」と記されていますが、これまで派遣して下さった自治体数と職員数も感謝の意味を込めて載せてはいかがでしょうか。
	④	P28「基本理念3」 3行目に「自分らしくいられること」という表現がありますが、とらえ方の難しい言葉と思いました。「自分の命と気持ちを大切に生きていられること」などに言い換えることは可能でしょうか。
岩見 委員	3	P33に3/27日の審議会資料のコンパクト・プラス・ネットワークという考え方の説明を入れる必要があると思います。
		④ これからの10年を目標に、現在のコンパクトシティと言われる場所以外に住んでいる町民も含めた全体を住みやすくして行く、と言う考えを正しく伝えるための説明があるといいと思います。
栗和 田委 員	3	基本方針1に入っている「子育て環境」は、基本方針3に入れる方が良いのではないかな。小学校以降だけではなく、その前からの子育てにも教育が必要な時代だと考えている。故に子どもに関しては一括して基本方針3に入れてはどうか。一括したほうが役場内での連携も取りやすいのではないかな。
佐藤 (恵) 委員	3	住んで良かったという視点はあるが、住んでみたいという外から集める内容がない。人口を増やすという視点がないような気がする。住んで良かったよりも、住んでみたいといった前向きな文言の方が良い。

田所 委員	1	震災以降人が減り、子供たちも遊ぶ相手が少なくなっている現状があり、家で遊ぶしかない状態となっている。そのような子どもたちの10年後を見据え、審議を進めるべきと思う。
鈴木 委員	②	十人いれば、十人のまちづくりが有り、万人いれば万人の暮らしが在る。それを踏まえた上で、これまでより積極性のある、長期総合計画を策定する。
	②	「新しいまちづくり」には、新しい頭が必要であり、新しい発想でのまちづくりを期待する。
	4	資料1に、基本構想・基本計画の施策との関連性を記載して欲しい。
	4	【これまでの総合計画はそこそこ達成感があった。「悠々とした」「緑豊かな」「人のつながり」「自然と調和した」「明るく住みよい」の名は体を表した。体に合わせて名を選んでいたかもしれない。】という意見を第2回審議会意見後のワンペーパーに書き込んでいたが、これは皮肉を込めての事である。「悠々とした」や「自然豊か」などの目標は、山元町の場合自然と達成されていく可能性が高く、だからこそこれまでの総合計画は達成感があった。しかし経済等に関しては自然と豊かになるわけではなく、豊かになるには注力が必要であると考え。「自然豊か」や「悠々とした」などの現在ある状態だけではなく、もっとより良いところを目指すところに特化した計画・文言にすべきではないか。
	4	総合計画を条例化して、毎月委員会を開催し、中学生の意見を聞くなどの機会を設け、それを5年間続けて、次の目標・次期総合計画につなげていくというやり方をしてほしい。
松村 委員	4	人口推移などは山下地区、坂元地区について区分することはないのでは。合併されて何十年もたっているのに分けられたままでは、余計な隔たりを生んでしまう。

委員	回	基本計画に関する意見
伊藤 (順) 委員	1	障がい者、高齢者施設等に対して一般の方々に知ってもらい、地域のボランティアに入ってもらえるような地域づくりをしていきたい。
	1	障がい者と高齢者が共生できるサービス・地域交流支援を。
	3	今後高齢化が進み買い物難民が増えると思う。さらに子どもも少なくなり学校も減ると思うが、それによってスクールバスの運行が必要となると思う。そのスクールバスを買い物難民となっている人の買い物バスとして運行してはどうか。買い物等の高齢者にとって楽しみになることがあっても良いと思う。
萱場 委員	1	他町の方より、山元町の文化活動の場の多さを褒められることがあるが、高齢者がイキイキと生活するためにも、今後もこのような交流活動の場は大切に続けるべきと考えている。これは財政の助けにもなると考えている。
	1	地域と一体になるような、まちづくりや地域づくり、山元町らしい人づくりをしていくべきと考えている。
	②	高齢者には健康に長生きしてもらい、子供を産みたいと思う環境を整え、生まれた子供たちは地域全体で育てていくようなまちづくりが必要ではないかと思う。
	②	少年の森をグリーンベルトと題してサイクリングロード等として整備し、駅に貸自転車を置くことで人の動きを生み出し、その間にある商店等に経済効果を生み出す。
	②	外国人労働者受け入れに関して、生活習慣の違いや住居の確保、犯罪や住民トラブル等が考えられるが、同時に、国際化・人口増加・経済効果・語学力の上昇などのメリットも考えられる。
	②	外国人との共生のため、支援体制の確立や町民の共通理解を早めに図る必要がある。
	②	自然環境の保全
	②	少年の森を中心に南北の歩道の整備を行い、ハイキング・サイクリングへの活用。
	②	震災遺構の中浜小学校をメインとした歩道の完備
	②	日常の買い物に困らないように、マルシェのような市(いち)を、区ごとにローテーション方式で公会堂などに展開
	②	健康寿命を延ばす施策も財政上必要であるため、図書館の設置を提案。山手の方に作ることで、お年寄りに歩いてもらうことも考えられる。
	②	再編により、学校の数を減らしても、基本ができていないと良い教育に繋がらない。
早坂 委員	1	山元町は自然環境・高速道路や鉄道がそろい、住みやすいと感じている。このようなことをさらに活かすこと考えていくべきと思う。
	1	交流人口 100 万人を掲げているが、やはり定住人口を増やすべきと考える。
	2	企業誘致と定住促進が重要と考える。
	2	雇用人数が少ないとの声も聞こえてくるため、その改善も必要と考える。

伊達 委員	1	これまでのコンパクトシティ化によって海側の移住はできたが、山側はできておらず、近年の大雨による土砂災害を考慮すると、山側のコンパクト化を進めるべきと考える。
	1	町全体のコンパクト化を進めるにおいて、移住先の住む場所の確保も求められるため、つばめの杜の宅地を増やしていくことも必要と考える。
	1	コンパクトシティ化でインフラ等の行政コストを削減し、その余剰分を子育てや教育へ回すといった方向性を考えている。
	2	これまでは災害への対応として、守る・逃げるといったものがあつたが、次期計画からは、災害のない安全な場所に住むといった視点も必要ではないか。
	2	インフラ費用の縮小や、安全のためにも山側の移住を行い、コンパクトシティ化を進めるべきと考える。
	3	これまでの山元のコンパクト化はあくまで被災した海側のみであるが、これからの災害リスクを考えたときに山側の土砂災害などがあり、山側の移住によるコンパクト化を進めていくべきである。
	3	すぐに移住するのは難しいので、今後 10 年で山側に住む人の中心街への移住の受け皿を作る必要がある。
	3	中心街の一か所にまとまっていれば、老人への訪問や買い物も便利に行うことができ、インフラ等の行政コストの削減・災害時の救助活動の負担減になる。老人等が中心街に住むことにより、買い物難民を出さない効果もある。
	3	お年寄りが移住を考えることは難しいと思うが、それでも子や孫の次世代に向けては集約が必要であり、この考えを町民に知ってもらう努力が必要である。
	②	町の財産である歴史遺産(蓑首城跡や茶室など)・遺跡(合戦原線刻遺跡など)の活用。
	②	周辺を含め、歴史公園、遺跡公園への位置付け、拠点づくりと周辺整備 →フットパスマップ、観光地図作成での周遊ルートを選定
	③	新市街地周辺への移住者(町外から、町内も)への受け皿づくり(住宅地供給)により更なるコンパクトシティ化に向けての進展を模索する
	③	p 26、課題 3、若者は外・都会に出たいという気持ちは持って当たり前、ここに生まれてから一生終えるまで押しとどめておくことは不可能と思う。一度外へ出て、社会勉強して、戻ってきてもらう。したがって、戻ってきやすい環境、戻れる場所を整えておくことが必要と思う。交流人口拡大に向けた取り組みから、良さを理解してもらい、定住へと向けた取り組みが必要ではないか。
	④	基本計画 p 2、【現況と課題】 第 1 章については記載の内容について、何が現況で何が課題なのかごっちゃまぜになっていてわからない。すべてにおいて、内容整理が必要です。例えば「子育て環境」では ・の 1 番目と 2 番目は 2 つで 1 項目ではないか。 ・の 3 番目と 4 番目は現況がない。 ・の 5 番目と 6 番目は現況と課題になっていない。

伊達 委員	④	基本計画 p9(3) ・農産物では園芸の花弁などの新特産物の開発と推進へ取り組みます。 ・水産物では新資源の発掘と新特産物の開発とブランド化に取り組みます。(追加すべし)
	④	基本計画 p9(9) ・森林所有者とともに森林を活用した産業及び地場木材を活かした新製品開発に取り組みます。(追加すべし)
	④	基本計画 p 11、12、(7)(8)(9)について 【現況と課題】のところの最後で「町内企業への就職希望が少ない状況」ととらえているところであることから、ここには就職しない理由・原因がどこにあるかを探り、マッチングをするためにはどうすればよいかも記載すべきと考えます。
	④	p 13、【現況と課題】の最後の項目 「相乗効果を生み出すとともに史跡や遺跡を活用した魅力ある拠点をつくりだし、更なる交流人口の拡大を図る必要があります。
	④	p 13(1) 地域特性を活かした・・・ 各種イベント等の開催、休憩施設を含む公園などの拠点・周辺整備を行い、またそれらの周遊コースを設定するなどし、自然・歴史・文化・・・
	④	p 15、(4)・中古住宅購入・リフォーム(追加してはどうか)補助金により
	④	p15、(5)新規住宅用地の確保(追加すべし) ・新市街地周辺にU・I・J ターンなどの新規転入者及びコンパクトシティ実現のための町内移転者用新規住宅用地の確保を推進します。
	④	p 18、(5)学校教育 スポーツ少年団活動の充実を図り、・・・ p21 には「(6)・・・芸術・文化団体、指導者の育成」ということが記載されているがスポーツ少年団の指導者にも「育成及び研修」などが必要、さらには「学校との連携強化」なども必要と思われます。それを記載するべき。 理由 1 ; 「スポーツ少年団」の子は礼儀がよく規律正しいと評価が高い。しかしながらこれからは中学校では部活動の時間制限が叫ばれているとおり、小学生がメインのスポーツ少年団の過度な試合・練習も問題となる可能性もある。したがって、それらの指導者の育成・研修も重要でかつ必要なのではないかと考えます。 理由 2 山元町の子供は学力が低いといわれているようですが学力向上の問題は学校だけの問題ではなく、p 17、(2)基礎・・・、「学習習慣の確立」と記載にあるとおり、小学生のうちに家庭学習の習慣化が重要と思われる。しかし、土日などの休日時間がスポーツ少年団の過度な試合・練習により、それが阻害要因となっはいけない。そのため、適正な活動と休息が必要です。指導者にはそれらを見極められる力量と見識が求められます。 理由 3 少子化でメンバーが足りず無理に誘われ、不参加の者が仲間外れにされるな

伊達委員	④	どで、それらがいじめに繋がるなどの懸念もあります。それらを未然に防ぐためにも指導者の力量・質の向上が重要性とされます。
	④	p 21、(6)生涯学習(最後に追加)「また、活動のための自主財源確保のため、各種助成金の情報提供及び申請のための研修を行います。」を追加。
	④	p22、文化財 【現況と課題】の課題と【施策と基本方向】につながりが認められない。 例えば【課題】に「・・・管理・保全に取り組む組織の構築や」とあるが【方向】には組織の在り方についての記載がどこにもない。 (2)・・・文化に触れる場の提供、・・・学習機会の場の提供や体験の場の整備の実施に努めます。
	④	p 25、(1)防災・減災 危険なブロック塀の除却・・・ 除却の前に調査・公表そして、持ち主本人通知は完了しているのか、除却はそれが終わってからではないか。また、除却という言葉は適当か。除去(撤去)・耐震補強などという記述の仕方になると思うのですがどうでしょうか。コンパクトシティで「防災・減災」から「免災・避災」へステップアップ
	④	p 28 【現況と課題】 ・震災関連の復旧工事は一段落したものの、高速・・・
	④	p 29、(1)コンパクトなまち・・・ まちづくりを進めるとともにコンパクトシティへの理解と意識醸成、そして新市街地の周辺に町内移転者用住宅地の確保を行います。(坂元では旧坂元中学校跡地が立地、費用面も最小で済み、最適と思う。)
	④	p 30、(4)・・・維持保全の推進 この部分に、道路、公園や緑地の維持管理について、「ボランティア団体の活動推進・アドプト活動」の項目記載がない。ちょっとおかしい。追加すべきではないですか。
	④	p 32、【現況と課題】 「広域水道の改定等」では意味が通じない 「広域水道の料金改定等」もしくは「広域水道の運営管理改革等」ではないか。
	④	p 34、【施策の基本方針】 「・・・自然環境を大切にしながら、環境負荷・・・」「しながら」という言葉は不適切、「大切にするとともに、環境負荷・・・」に訂正すべし
	④	p34、(1)・・・環境意識の高揚に向け、適切な情報提供・・・ ここでいう「適切な情報」とはどんな情報か、適切とは何、ちょっと想像できない。
	④	p 35、(9)環境衛生の推進 「環境衛生」と「景観づくり」が結びつかない。もう少し、イメージがわく言葉で説明してほしい
	④	p 37、【現況と課題】 ・協働・・・地域コミュニティ活動のための「整備を実施し」、何を整備したのか不明

伊達 委員	④	制度整備なのか集会所等の施設整備なのか不明です。
		p 39、(1)財政基盤の…
	④	…効率的なコンパクトな街づくりを推進し、さらに行政コストについてはインフラ整備・維持管理、福祉・介護等の縮小・削減の実現を目指します。
	感想と課題	
④	基本計画(案)の全体的な話として、【現況と課題】のまとめ方が各項目(書き手の違い)により、項目の全般に現況、そして課題というふうに書いてあるものもあれば、現況を何項目にも渡って書き、最後に課題の項目を記載する、また、現況なしで課題だけを記載しているものもあるなど、まちまちであり整理が必要、まとめ方を統一、指示すべきではないかと思いました。	
荻原 委員	1	住まいを探すうえで教育というものは大きなポイントとなると思うが、学校再編により、学校がなくなってしまう地区があれば、その地区への移住等を取りやめる方もいるのではないか。
	1	少子高齢化対策には、魅力的なまちづくりが必要と考えており、商業施設や医療の充実、はらこ飯やイチゴ等のPRといった山元町独自の取り組みが必要と思う。
	1	家を建てることへの補助など、移住に関するPRを積極的に行うことも重要と考える。
	②	定住人口の確保(まちづくり)・公共交通が便利なまち、日常の買物が便利なまち
	②	人口増への準備(まちづくり) ・利便性の良い魅力的な地区(つばめの杜)の住宅地を増やし、新たな定住者も安心してらせるまち
	②	交流人口増へ(観光・交流) ・山元町の素敵なところを町外へアピールし、遊びに行きたくなるまち
	②	町の子供は宝(子育て) ・子供の安全、成長を見守り、みんなで育てるまち
	②	愛されるまちづくり(まちづくり、産業) ・山元町の自然や特産品を大切にし、ふるさとに対する思いを育むまち
	④	基本計画第3章「のびのびと学び、夢と志を育むまちづくりに取り組みます」 目標指標項目の追加提案。 1、1年間休まずに学校に登校できた児童生徒の割合 2、先生に良いところをほめてもらえている、認めてもらえていると答えた児童生徒の割合 3、家庭学習を毎日していると答えた児童生徒の割合
	清橋 委員	1
2		求人に関して、正社員でなくパートや派遣では収入の面から言って魅力を感じない。

清橋 委員	2	定住促進に関して、移住者への支援は手厚いが、現在住んでいる支援も怠るべきではないと考える。
	3	土砂災害警戒区域に関して、町からの説明では心配はないと聞かされている。この結果から土砂災害を根拠とした山側からの移住は難しいと考える。もし土砂災害の危険性をもって移住を促すのなら、町の意見との足並みをそろえる必要があるのではないか。
	②	歴史や文化を大切にすまち →子どもの時から、山元町に残る遺跡や文化財から山元町の歴史を学ぶ機会を設ける。
	②	未来を担う次世代を育てるまち →子どもを心身ともに健やかに育み、教育に取り組むまち →若い世代が住み続けたいと思うまちを目指す。
	②	100年後の緑を創るまち→震災で削り取られ、無くなった里山や丘の跡に木を植え、平地に林や森を再生する。
	②	定住に関して、町外から移住者を呼ぶことだけが定住促進ではなく、現在住んでいる次世代の不安を解消し、住み続けたいと思ってもらうことも重要である。
	④	P3-(5) 子育てサポーターは子ども達を育む手助けをする役割と考えていたのですが、教育力の向上を図るという語句は疑問があります。
	④	P15 現況と課題の ・3番 3行目には、安全面からもその対策が必要です。と加えてはいかがでしょうか。
	④	P16 目標指数に公共図書館とありますが、山元町に図書室はあっても図書館があるとは思っていない町民が多いと思います。これから整備する計画があるということでしょうか。
	④	コンパクトシティ化を進める上で、留意しなければならないことがあると思います。それは現在町内に拡散して暮らしている人達がいることで保たれている自然環境があり、集約を進めることで町内の荒廃につながりかねない心配が出てくることです。守ってきたところが荒れてしまうのを心配して住み続けたいと考えている人達もいると思いますので、運転免許証を返納しても、車がなくても、ほかの家族を当てにしなくても、 <ul style="list-style-type: none"> ・きちんと食べるための食材や日用品を買いに行くことができる。 ・病院に行ける。 ・健康診断を受けに行ける。 ・みんなが集まる趣味のサークルや習い事、友達に会いに行ける。 などの環境を高齢化がもっと進む前に、整え充実させていくことを優先する必要があると考えます。

岩見 委員	1	行政だけに頼らず、あるものを活かし、町民自身が意識を持つことで町の良さを活かせると考えている。
	1	子育てしやすいまちづくりを行うと同時に、子供に町を好きになってもらえる取り組みも重要と考える。
	2	アンケートからは、中学生は町を好いているが、働く場所が無いように感じているようにも見えるため、地元企業の働きたいと思わせる努力や、働きたいと感じる企業の誘致が必要と考える。
	2	地元企業の魅力を伝えるためにも、職場体験などを幅広くすることも考えられる。
	3	文言の中に定住などの内容はあるが、インバウンドに関する内容のものはないと思う。方針の中に入れてはどうか。
	4	SDGs に関して、「安全な水とトイレ」や「飢餓をゼロに」などの内容は、山元町内ではなく、世界的な問題と感じる。この指標は山元町から世界に対して何かをするという意味で考えているのか。
伊藤 (洋) 委員	2	職場体験が、地元での就職に繋がったこともあるが、やはり都会に出たいという声も多いため、山元町で働きたいと思ってもらうには、企業の努力が必要と考える。
	4	障がい者という表現は 18 歳以上を指す意味となる。18 歳未満の場合は、障がい児という表現になるため、障がい者(児)のような表現としてほしい。
	4	障がい者福祉の広報啓発について、分け隔てなくみんな一緒であることが表現して欲しい。
	4	療育支援について、幼児期から学校卒業までなどの、関係機関との連携を具体的に記載して欲しい。
川村 委員	1	学校では、子どもの数も減ってきており、部活の廃部等の問題も起こっている。学校再編に関しては早急に対処する必要のある問題と考えている。
	3	学力向上についての文言が無い。学力向上については学校や家庭との協力が必要という話し合いがあったが、それについて触れられていないので追加をするべき。
	②	坂元地区では、店などもなく、不便な思いをしている人が多い。
	②	山下だけ栄えており、そこ以外は過疎地となっている。
嶋田 委員	1	交流人口 100 万人を掲げているが、山元町には宿泊施設がなく、不便を強いられる場合もあるため、宿泊施設に関する取り組みが必要と考える。
	1	近年の大雨の増加や、震災以降の山の工事や設備の老朽化から、町の排水機能が心配であるため、排水計画に対して目を向けることが必要と考える。
	2	町内に住んでいる人も、仕事は町外だという人が多いため、そのような人が定住できる取り組みならば、若者の流出防止につながるのではないかと。

佐藤 (拓) 委員	1	山手の方の耕作地放棄が増えている現状で、農地以外の活用方法も視野に入れるべきと考えている。昔の農地を守るというよりかは、立地の良い場所を主軸とした考え方に転換することも考えてもよいと思う。
	2	つばめの杜に家を建てられずに、移住をやめたという人も数人知っている。つばめの杜の宅地整備も必要と考える。
	2	「町民の意向と期待」の内容について、雇用の場の確保という文言が記載されているが、自分的にはそれに至るまでの経過の文言が必要と考える。「新規就業における人材の育成」などを経て、雇用の場の確保につながるのではないかと思う。「まちの現状」と「町民の意向と期待」双方が人材の確保・雇用の場の確保といったぼやけた表現では、何も動かないと思う。「雇用の場の確保」をするための「人材の育成」といった文言が必要と考える。
栗和 田委 員	1	子育てとは地域の全員で行う必要があると考えている。地域に高齢者が多くなる中で、地域と行政と学校が連携し、子供を見守りながら、子育てをする必要がある。
	1	第5次総合計画の保健福祉に「地域全体の子供や子育て世帯及び高齢者世帯及び障がいのある方を支えるまちづくり」という文言があったが、継続させてほしい。
	1	今後、障がいを持って生まれてくる子供が増えると思うが、こういった子供たちを安心して預けられる場所は、山元町にはまだない。そのようなものを行政で作るか、地域で見守れる体制の構築ができればと思う。
佐藤 (恵) 委員	1	高齢化により離農する方が多くなると思うが、継承率が課題となると考えている。また、その際に残された農地をどのように利用するかは、人口減少に対する要因の一つとなると考えている。
寺島 委員	1	理想を言えば、人口を増やしていく政策を考えるべきと思う。
	1	お金もかかると思うが、別枠でも、人口減少を止める・人口を増やす、山元町独自の政策を進めても良いと思う。
	3	私はこの審議会の機会ですべて初めてこのような計画や方針があることを知ったが、年配の方はHPに記載されているといっても見ない。移住・定住を掲げているのであれば、その方針を町民全員で共有する必要があると考える。そのためのPRを幅広く行うべきでないか。
	3	人を集めるためには、震災前のようにお祭りが必要ではないか。町にはいちごをはじめとした地場産品が豊富にあるのだから、それを組み合わせたお祭りを開催することを検討してほしい。
	3	お祭りは山元町だけではなく、テレビ局等を使い宮城県全体にPRしていく必要があると思う。

松村 委員	1	宮城病院の内科を充実するべきである。
	1	高速のインターを利用した企業誘致を行うべきと考える。
	1	教育に関して、小中学校の教育の何か一面で、優れた項目があれば、教育を重視する家族が移住する一つの要因となるのではないか。また、基本的なことだが、いじめを出さないということ、家庭や学校での教育で徹底するべきと考えている。
	1	学校再編に関して、編成するしかないという方向ではあるが、小学校については一つにしてしまわず、二つにするなど、慎重に進めるべきと思う。また、編成により新しい校舎を建てることはせず、空いた校舎も利活用するようにし、あるものを活用する方向で考えたい。
	4	山元町の小学生の学力は D ランクであるが、教育は移住に関しての指標として重要なものと思う。学力を上げることで若い人・子育て世帯が移住したいと思える環境を作っていくことが必要である。
山崎 委員	3	実りある学習体験の充実をしてもらいたい。
阿部 委員	②	キーワード：「にぎやかな過疎」「人口減・人材増」 「にぎやかな過疎」：人口減少が続き、データ上は過疎地域であるが、地域内では新しい動きがみられ、賑わいが感じ取れる。
	④	P. 9(6)環境にやさしい農業の推進：環境に負荷の少ない有機栽培をはじめ、減農薬、減化学肥料栽培など環境にやさしい農業への取り組みを推進します。 ⇒科学的な根拠が認められた農業資材や情報を最大限に活用した環境循環型の農業を推進します。 提案理由：高校、大学のない本町では、特に進学就職時の 10 代～20 代の流出が顕著。地域に 10 代 20 代世代の関わるプログラムを実施する。
	④	(追加) P. 30 都市整備公共施設の計画的な維持保全の推進 新たな公共施設の整備については・維持管理費を考慮した上で行います。同時に有給施設の活用は民間による運用を進めます。
	④	(追加) P 35 (10) 雑草管理の推進 里山の保全、耕作放棄地の開所、鳥獣被害の軽減など生活環境の向上を目的とした、適切な雑草管理を推進します。
	④	(追加) P 33：目標指標 「総合計画」の認知率 ※理由：そもそも総合計画は、実際どのくらい読まれ、参照されるものなのでしょうか。手間も予算もかけてつくるものなので、よくある本棚で埃をかぶっている、「未読スルー」は悲しいことです。せっかく作るのであれば、認知率や理解度の追跡はしたいものです。(もし仮に、参照されないのだとしたら、今以上に人手も予算も限られた 10 年後、総合計画は、作らなくてもいいと個人的には思います。一町民としても、自治体や企業さんの計画・戦略づくりを仕事としてさせていただく身としても。)

清野 委員	②	魅力ある農業漁業(特色ある農産物の作付けと魚貝類のPR)
	②	高齢化に対して、医療費の増加、介護施設の充実、病院・買物の充実、スーパー・コンビニ等の連携による移動
	②	町の配布物の併用とLANによるインターネット活用での発信
	②	町の歴史の活用・PR
	②	少子化に対して、学校の統合、子育て支援の充実
	②	人口減少に対して、魅力ある住みよい町、観光施設の充実(農漁等、自然環境の充実、PR)
	②	民宿等宿泊施設の充実、交流人口の活性化、公共施設(区民センター等)の活用
	②	名所旧跡の調査とPR、ルートマップの充実
	②	町特産のPRと体験施設、無料自転車の貸し出し
鈴木 委員	②	今日、自然災害は激化・複雑化の傾向にあり、消防は「最悪の場合を想定し、それに対処する準備が必要となっており、また、防災拠点が機能するかなど多くの懸念が存在する。
	②	大きな問題として、「人口減少による高齢化」による災害の深刻化・対処方法の深刻化があり、この変化により、消防団をはじめとした町の様々なものに変化が求められる。これには長期的な視野に立ち、町全体の計画の「志」を一つにまとめる必要があると思っている。
	②	『子育てするなら山元町』のスローガンに有る様に、明るい未来を見据えた明るい計画が必要と考えます。
	②	生活重視の施策から、「山元町」が生き残るための、経済重視の政策へ。
	②	スローガンともいふべき、背骨は一つ。全てをこれから派生・発展させる。暮らしの中には、子どもから高齢者までであるが、その中においても、特に「働く」に重点をおき、まちづくりを考える。
	②	町の道路は、行き止まり・丁字路が多いため、「点」を結ぶ「線」を書くように海と山・北から南へと町を繋ぐ、誰にでもわかりやすく、誰でも安全に通れる道を作ることが必要である。できれば碁盤の目のように。
	②	道を計画するのに最も大切なことは「やさしさ」であり。車も通る。人も安心して歩ける。緑がある。所々に休み場がある。山元町に、モノや人を繋げる「道」を作る必要がある。
	4	SDGsに関して、モデル都市のようなものを目指すのであれば入れてもいいと思うが、目指さないのであれば要らないのではないかと。載せるのであれば、何年までに何を達成しようという目標を入れてもいいと思う。
	4	山元町は道路環境が乏しいと考えている。中学校が1校になり、通学路が変わるが、学校までアクセスする道路は歩道がないなど、危険な点が複数みられ、子どもたちに申し訳ないと感じている。